



# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版



### 組織的な課題解決力を高める学校運営組織の例(ミドル・アップダウン・マネジメント)

教育課題が多様化、複雑化する中、学校を挙げての組織的な課題解決力がこれまで以上に求められています。今月は、校長のリーダーシップのもと、学校の核となるミドルリーダーを活用した運営組織の編成例を紹介しています。次年度に向けた体制づくりの参考にいただければと思います。

### 単元到達度評価問題等を使った教科マネジメント —学校全体で取り組む学力向上—

学校全体で協働的に単元到達度評価問題を活用し、学力向上につなげている事例について紹介しています。小学校では、単元到達度評価問題をもとにした授業改善やマネジメントの参考に、中学校では、定期テスト等における結果の分析や補充学習に学校全体で取り組む際の参考にいただければと思います。

### 【小学校単元到達度評価問題における課題をもとにした改善のポイント】 「割合」の学習を振り返り、子供たちに確実に力を付ける

単元到達度評価問題1月の結果から、継続して「割合」に課題があることが分かりました。今月は、平成29年1月のお役立ち情報を再度、お配りします。学年のまとめや「割合」の指導の振り返りに御活用いただき、子供たちに確実に力が付くようお願いします。

### データが見える化し、成果と課題の共有を！ 年度のまとめや新年度のスタートに月例報告を活用する

学校全体で月例報告の情報を共有できているでしょうか。本号では、今年度のまとめや新年度の体制づくりに月例報告を活用する例を紹介しています。学校にあるデータを有効活用し、校内研修を計画したりする等、安心・安全な学校づくりにつなげていただきますようお願いいたします。

### 特別支援教育ほっと通信

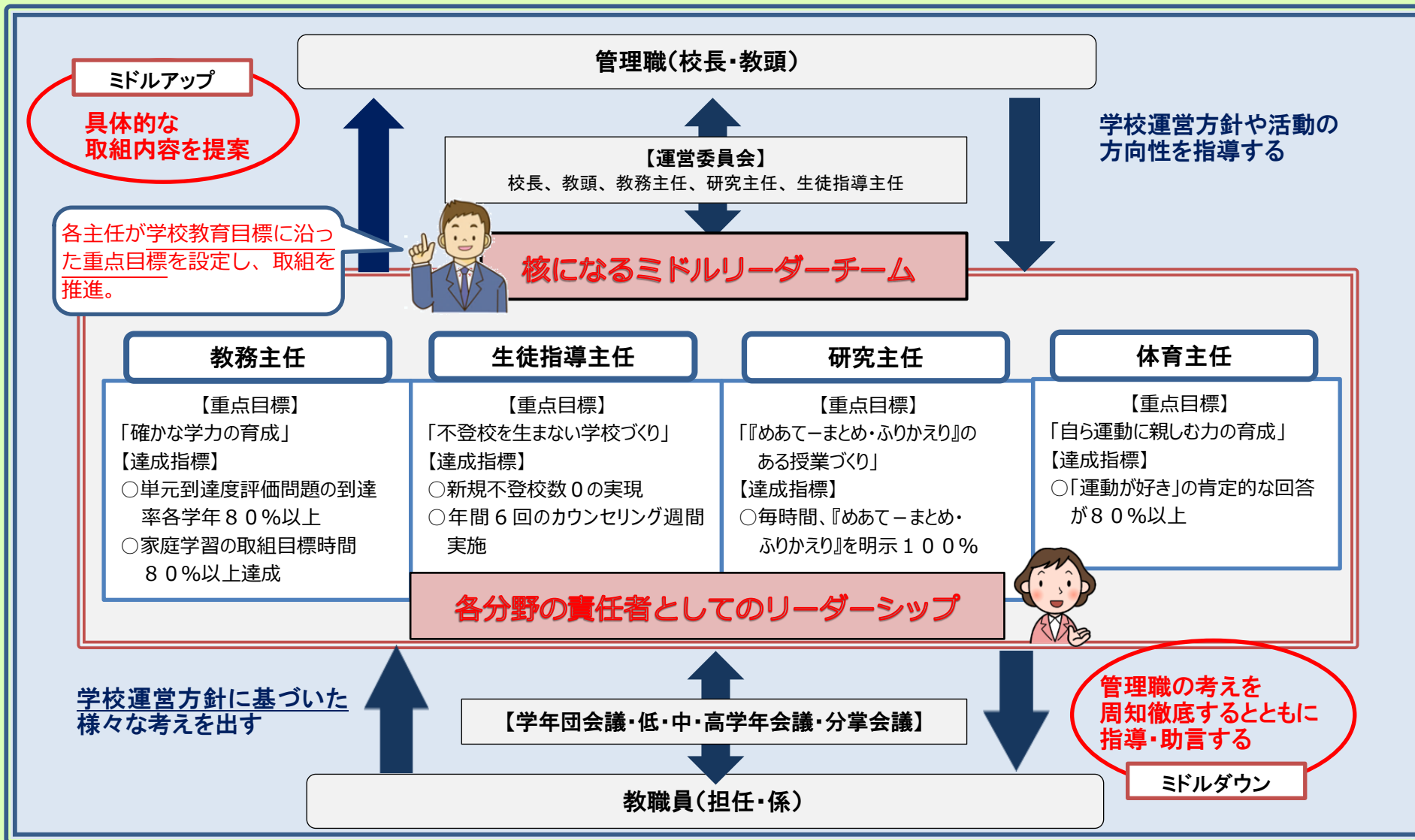
子供たちの可能性を最大限に伸ばし、もっている力を十分に発揮することができるようにするためには、児童生徒の実態把握を踏まえ、きめ細かな教育を行うことが必要です。今月は、教育課程編成において、よく見られる誤りをもとに点検のポイントを紹介しています。4月から確実なスタートを切るために、計画づくりを3月中に行い、適切な教育課程を編成していただきますようお願いいたします。

# 組織的な課題解決力を高める学校運営組織の例(ミドル・アップダウン・マネジメント)

教育課題が多様化、複雑化する中、教職員一人一人の力量形成に加え、学校を挙げての組織的な課題解決力が今まで以上に求められています。本号では、課題解決力を高めるため、校長のリーダーシップの下、ミドルリーダーの役割を生かした学校組織づくりについて考えています。

【次のような課題が見られませんか？】

- 管理職と個別の教員が直接つながる「なべぶた型」組織である。
- 分掌上の責任の所在をさらに明確にしたい。
- 管理職やキーパーソンが異動すれば、継続的な取組が困難。
- 管理職が個別の教員に指示を出すケースが多い。



# 単元到達度評価問題等を使った教科マネジメント —学校全体で取り組む学力向上—

今月は、校長先生方から学校訪問でお伺いしたことをもとに、学校全体で単元到達度評価問題を活用し、学力向上につなげている事例についてお示します。単元到達度問題をもとにした授業改善が4・5・6年生担任だけの取組にならないよう、教科マネジメントの参考にしていただければと思います。

## A 課題をもとに授業改善・補充学習

管理職  
教務主任  
級外



単元到達度の結果を踏まえて、課題の見られる単元や学級、学年を把握し、自信をつけてもらうために積極的にサポートに入ります。

改善の難しい課題には学校体制で対応

割合の指導がなかなかうまくいきません。



担任



学年主任

学年の少人数体制を工夫して、私がT1、先生がT2になるようにしてみましょうか。

放課後に**補充学習**を実施して、サポート体制を充実します。



教務主任



算数主任

## P

## 「5分間ミーティング」で指導事項の確認



今月の問題が配信されました。**少人数のグループ**で**5分間**ミーティングをして、指導事項を確認しましょう。

「全職員」「少人数」「短時間」がポイント！

この問題を解くために**必要な資質・能力を明確に**しましょう。



担任



算数主任

学習指導要領解説の〇ページですね。扱う学習用語は・・・。

担任

算数主任

今3年生で、その単元につながる学習をしていますよ。**既習事項についても確認**しておくといいですね。



教務主任

## C 単元到達度問題を実施し、結果を分析

採点をしてみると、子供たちのつまずきや課題がよく見えてきます。



級外



教務主任

採点をサポート

課題を**全校で共有**して、それぞれの学年での取組を考えてもらおう。



算数主任

少人数のグループで採点・分析→学校全体で共有

異学年ペアで分析・検討

5年生は割合を求める問題でつまずいているようですね。



下学年担任



上学年担任

かけ算の学習で、「基準量のいくつ分」を確実におさえることが必要ですね。

## D 日々の授業で指導事項を徹底

ねらいに応じた**適用問題を設定**して、**確実に実施**することが大切です。



担任

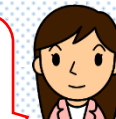
効果のあった指導や適用問題は、**学年で共有**しましょう。



学年主任

過去の問題や、下学年の問題を積極的に活用

この単元につながる**下学年の問題を提示**してみよう。



担任

当該学年の問題は、**数値を変えて繰り返し活用**しよう。



算数主任

適用問題を確実に実施するためには、**タイムマネジメント**も大切です。



【小学校単元到達度評価問題における課題をもとにした改善のポイント】

「割合」の学習を振り返り、子供たちに確実に力を付ける

5年生の単元到達度評価問題（1月）の結果から、継続して「割合」の問題に課題があることが分かりました。今月は、過去のお役立ち情報（平成29年1月号）を再度、お配りします。「割合」の指導の振り返りに御活用ください。また、必要に応じて補充学習を行い、次年度につなげていただけたらと思います。

つまずきの要因として想定できるのは…

- 問題文の中から「もとにする量」と「比べる量」が何かを捉えにくい！ →基準は何かを判断する力
- 問題場面を、関係を表す図や数直線などに表すことが難しい！ →数量関係を算数的に表現する力



「もとにする量（基準量）」や「比べる量（比較量）」を確実につかむことができる発問や支援のポイントは何かな？

＜問題＞ 5年生 啓林館（チャレンジ問題）P175より  
あゆみさんのクラスでアンケートをとったところ、算数が好きと答えた人は21人いました。  
これは、クラス全体の人数の60%にあたるそうです。あゆみさんのクラスの人数は何人ですか。

ポイント① 問題場面を把握する活動を位置付ける



- ①問題を読む時に、量の感覚や大小関係を丁寧に扱う。
- ②問題文で聞かれていることを発問で整理する。「聞かれていることは何かな？」
- ③「もとにする量」と「比べる量」を示す言葉に、それぞれ色を変えて、アンダーラインを引くようにアドバイスする。

☆割合の定義をもとに、数量関係を把握

「割合」とは、**比べる量**が、**もとにする量の何倍**にあたるかを表した数です。

$$21人 = 全体の数 \times 0.6$$

☆「もとにする量」に関連するキーワードに着目

「定員の」「もとの(値段)」「～のうち」「全部で〇〇mです。このうち」

☆基準が何かを意識できるように系統的に指導

(例)数と計算:かけ算の学習 4(基準)の3倍 量と測定:単位の学習で何を「もとになる大きさ=1」にするか、測りたい量はそのいくつ分(何倍)にあたるのか。



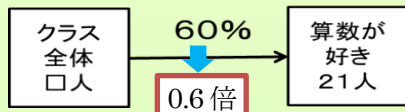
ココがポイント！！



ポイント② もとにする量は何か考え、問題場面を関係図で確認する



- ④「もとにする量」と「比べる量」を話し合いで整理する。
- ⑤問題場面を関係図に整理しながら確認する。



「全体の人数」の60%が、「算数が好き！」だから「もとにする量」を全体の人数にしたらいいと思います。

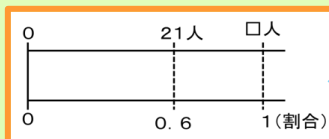


60%は割合を整数で表したものだから、小数で表すと0.6になります。

ポイント③ 数量関係を表す数直線や式をかき、式や図の意味を考え、学び合う



- ⑥問題場面を数直線や式で表すようにアドバイスする。
- ⑦式や図の意味を話し合いで整理する。



$$\square \times 0.6 = 21$$

$$\square = 21 \div 0.6$$

$$\square = 35$$



全体の人数を□として、0.6倍が21人と考えよう。



この図の「1」のところを求めればいいと思います。



◇数直線で、「もとにする量」を「1」ととらえ、図や式の表す意味を話し合いで整理します。

◇「小数÷小数」で1あたりの数量を求めた学習を振り返ることも有効です。

0.6倍なのに、なぜ、わり算をするのですか？図を使って説明できますか？

なぜ、□がクラス全体の人数になりますか？問題文のどこから分かりますか？

ねらいに合った適用問題で評価



◇何よりもこの時間を確保する授業構成が大切です。

＜評価のポイント＞

- ①一人一人が自分の力で問題を解くことができているかを見極め
- ②一人でできていない場合、何につまずいているかを見極め
- ③一人で十分にできている場合、子供をさらに伸ばす支援

# 年度のまとめや新年度のスタートに月例報告を活用する

4月から不登校はどのくらい増えているのかな？

今学期、保健室によく来ていた子供たちは何日休んだのかな？

自分の学級や学年の様子はわかるけど、学校全体ではどうだろう？

新年度のスタートにいかしたいな・・・。

今年度の校内のデータをまとめて、成果と課題を教職員で共有し、次年度につなげる。

## 月例報告でわかること

【学校調査票①】

学校名 \_\_\_\_\_ 担当教員氏名 \_\_\_\_\_

調査Ⅰ 児童生徒の不登校等に関する調査 ( ) の数(一致すること)

理由別区分 1年 2年 3年 4年 5年 6年 計

|     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 不登校 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 欠席  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| その他 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 計   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

**不登校**

調査Ⅱ 児童生徒の問題行動等に関する調査

| 問題行動等      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 合計 | 学校で対応 | 児童相談所 | 警察 | 家庭裁判所 | 児童福祉センター | 民生委員 | その他 |
|------------|---|---|---|---|---|---|----|-------|-------|----|-------|----------|------|-----|
| 1 問題行動等    |   |   |   |   |   |   |    |       |       |    |       |          |      |     |
| 2 専門機関との連携 |   |   |   |   |   |   |    |       |       |    |       |          |      |     |

**問題行動等**

調査Ⅲ 児童生徒のいじめの認知に関する調査

| いじめの認知        | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 合計 | 学校で対応 | 児童相談所 | 警察 | 家庭裁判所 | 児童福祉センター | 民生委員 | その他 |
|---------------|---|---|---|---|---|---|----|-------|-------|----|-------|----------|------|-----|
| 1 児童生徒のいじめの認知 |   |   |   |   |   |   |    |       |       |    |       |          |      |     |
| 2 認知したいじめの態様  |   |   |   |   |   |   |    |       |       |    |       |          |      |     |

**いじめの認知**

【学校調査票②】 調査Ⅳ 児童生徒の7日以上欠席者に関する調査

学校名 \_\_\_\_\_ 担当教員氏名 \_\_\_\_\_

理由別区分 1年 2年 3年 4年 5年 6年 計

| 理由別区分               | 7月~29日 | 30日~7月~29日 | 7月~29日 | 30日~7月~29日 | 7月~29日 | 30日~7月~29日 | 7月~29日 | 30日~7月~29日 | 7月~29日 | 30日~7月~29日 | 計 |
|---------------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|---|
| ①病気                 |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| ア上記のうち前年度も30日以上欠席した |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| イ新規(病気)             |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| ②経済的理由              |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| ア上記のうち前年度も30日以上欠席した |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| イ新規(経済的理由)          |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| ③不登校                |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| ア上記のうち前年度も30日以上欠席した |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |
| イ新規(不登校)            |        |            |        |            |        |            |        |            |        |            |   |

**7日以上欠席**

データが管理職と生徒指導担当のみの閲覧で終わっていませんか？

より広く情報を共有することで、子供の異変を察知できた事例も多くあります。多くの情報を持つ養護教諭や学年主任、特別支援教育主任等にデータを見てもらうことも考えられます。

## 不登校・長期欠席に関しての活用例

### ○新規・継続の不登校児童生徒数を分析する。

(中学校例) H29 合計10名  
H30 合計12名

2名増ですが・・・

#### 〈内訳〉

| H29年度   | H30年度              |      |
|---------|--------------------|------|
| ・3年生2名  | → (卒業)             |      |
| ・2年生4名  | →3年生5名 (継続3名/新規2名) | 新規4名 |
| ・1年生4名  | →2年生4名 (継続3名/新規1名) |      |
| (6年生3名) | →1年生3名 (継続2名/新規1名) |      |

11名 → 継続は8名

#### 【成果】

H29年度に不登校だった生徒のうち、3人は復帰もしくは29日以下の欠席にかわりました。学校の成果です。

#### 【課題】

新規の不登校生徒が4名います。休みははじめの対応はどうだったのでしょうか。「魅力ある学校づくり」も、もう一度見直してみましよう。

#### 【分析の視点例】

- ◆3月までの欠席状況を見て、どの学年の誰が、どんな理由で30日以上欠席しているのかを分析する。
- ◆月ごとの不登校状況を確認し、どのような対応・支援を行ったのかを振り返る。
- ◆月ごとの「7日以上欠席」の状況を確認し、急増した学年や月、その理由(行事や人間関係等)を分析する。

### ここがポイント！

## 新年度体制に向けて〈取組例〉

★不登校を生まない「魅力ある学校づくり」を推進する

★休みははじめの対応を決める

- ・月ごとの「7日以上欠席」を共有する。(掲示等)
- ・欠席が〇日続いた場合、担任と〇〇担当が家庭訪問を行う。〇日続いた場合、ケース会議を行う。

★スクリーニング会議の効率化や見直しを図る

- ・欠席、遅刻、保健室来室、う歯(虫歯)数、諸費用支払いの遅れ等、スクリーニングシート項目の整理・見直しをする。

★関係機関や連携手順を確認する

- ・年間の月例報告から「教職員以外での支援の状況」の特徴を分析する。
- ・関係機関の役割や校内担当者、教育相談コーディネーター等を確認する。

「7日以上欠席」のほとんどが「病欠」となっていたけど、実態をもっと分析してみよう。

分析したことを次の学年に引き継ぎますね。



# 特別支援教育ほっと通信

平成31年3月  
西部教育局

毎年4月下旬に提出していただいている特別支援学級の教育課程表ですが、4月から確実にスタートするためには、早い段階から次年度の教育課程の検討を始めることが必要です。

今回は、よく見られる誤りをもとに点検の手順(ポイント)をいくつか紹介します。

どこに疑問が生じるでしょうか？

## 2 授業時数等について

### 【例1】知的障がい特別支援学級

(1) 年間授業時数

《小学校》

| 各教科等<br>指導の形態 | 各教科         |        |        |        |        |                 |        |                  |                  |        | 特別の<br>教科<br>活動 | 外<br>国<br>語<br>活<br>動 | 総<br>合<br>的<br>な<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間 | 特<br>別<br>活<br>動 | 自<br>立<br>活<br>動 | 各教科等を<br>合わせた指導<br>の時間 | 授<br>業<br>時<br>間<br>数 | 交<br>流<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間<br>数 |  |
|---------------|-------------|--------|--------|--------|--------|-----------------|--------|------------------|------------------|--------|-----------------|-----------------------|---|------------------|------------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------------|--|
|               | 生活<br>(小学部) | 国<br>語 | 社<br>会 | 算<br>数 | 理<br>科 | 生<br>活<br>(小学校) | 音<br>楽 | 図<br>画<br>工<br>作 | 家<br>庭<br>育<br>成 | 体<br>育 |                 |                       |   |                  |                  |                        |                       |                                      |  |
| 氏名(学年)        | 米子 一郎 (3)   | 190    | 140    | 140    | 140    | 140             | 140    | 140              | 140              | 140    | 140             | 35                    | 15  | 55               | 35               | 35                     | 35                    | 960                                  |  |
|               |             | 2      | 3      | 2      | 3      | 3               | 3      | 3                | 3                | 3      | 3               | 3                     | 3   | 3                | 3                | 3                      | 3                     |                                      |  |

知的障がいがあるが、当該学年及び下学年の目標及び内容を学ぶ児童

生活単元学習  
(各教科等を合わせた指導)

「生活単元学習」は、知的障がい特別支援学校の各教科等を履修している場合のみ可能な形態

【例1】の児童は、当該学年の教科及び下学年の教科を履修

(2) 指導の形態

| 各教科等を合わせて指導を行う場合 | 合わせている各教科等(各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動)  |
|------------------|--------------------------------------|
| 日常生活の指導          | 国語、音楽、体育、学級活動、自立活動                   |
| 遊びの指導            | 国語、音楽、体育、学級活動、自立活動                   |
| 生活単元学習           | 国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、体育、道徳科、学級活動、自立活動 |
| 作業学習             | 国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、体育、道徳科、学級活動、自立活動 |

「各教科等を合わせた指導」を行うことは不可能

## 2 授業時数等について

### 【例2】知的障がい特別支援学級

(1) 年間授業時数

《小学校》

| 各教科等<br>指導の形態 | 各教科         |        |        |        |        |                 |        |                  |                  |        | 特別の<br>教科<br>活動 | 外<br>国<br>語<br>活<br>動 | 総<br>合<br>的<br>な<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間 | 特<br>別<br>活<br>動 | 自<br>立<br>活<br>動 | 各教科等を<br>合わせた指導<br>の時間 | 授<br>業<br>時<br>間<br>数 | 交<br>流<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間<br>数 |     |
|---------------|-------------|--------|--------|--------|--------|-----------------|--------|------------------|------------------|--------|-----------------|-----------------------|---|------------------|------------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------------|-----|
|               | 生活<br>(小学部) | 国<br>語 | 社<br>会 | 算<br>数 | 理<br>科 | 生<br>活<br>(小学校) | 音<br>楽 | 図<br>画<br>工<br>作 | 家<br>庭<br>育<br>成 | 体<br>育 |                 |                       |   |                  |                  |                        |                       |                                      |     |
| 氏名(学年)        | 境港 二郎 (1)   | 136    | 102    | 102    | 102    | 102             | 102    | 102              | 102              | 102    | 102             | 34                    |   | 34               |                  | 170                    | 136                   | 850                                  | 238 |
|               |             | 知      | 知      | 知      | 知      | 知               | 知      | 知                | 知                | 知      | 知               | 知                     | 知   | 知                | 知                | 知                      | 知                     |                                      |     |

知的障がい特別支援学校の教科の目標及び内容を学ぶ児童

知的特別支援学校の各教科

知的特別支援学校の各教科は、「生活」「国語」「算数」「音楽」「図画工作」「体育」の6教科

【例2】の児童の場合、時間割に「生活」が上がっていないことになる。

(2) 指導の形態

| 各教科等を合わせて指導を行う場合 | 合わせている各教科等(各教科、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動)の名称 |
|------------------|--|
| 日常生活の指導          | 国語、算数、音楽、道徳科、学級活動、自立活動                 |
| 遊びの指導            | 国語、算数、音楽、道徳科、学級活動、自立活動                 |
| 生活単元学習           | 国語、算数、図画工作、道徳科、学級活動、自立活動               |
| 作業学習             | 国語、算数、図画工作、道徳科、学級活動、自立活動               |

「各教科等を合わせた指導」の中に、「生活」を合わせることは可能

「自立活動」は必ず実施する。時間割には上がっていないが、「合わせている各教科等」の中に記載されている。

その場合、指導の形態の「合わせている各教科等」の中に記載することが必要

## 2 授業時数等について

### 【例3】自閉症・情緒障がい特別支援学級

(1) 年間授業時数

《中学校》

| 各教科等<br>指導の形態 | 教科別の指導     |        |        |        |        |        |                  |                            |                            |             | 道<br>徳<br>科 | 総<br>合<br>的<br>な<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間 | 特<br>別<br>活<br>動 | 自<br>立<br>活<br>動 | 各教科等を<br>合わせた指導<br>の時間 | 授<br>業<br>時<br>間<br>数 | 交<br>流<br>学<br>習<br>の<br>時<br>間<br>数 |  |
|---------------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|----------------------------|----------------------------|-------------|-------------|---|------------------|------------------|------------------------|-----------------------|--------------------------------------|--|
|               | 国<br>語     | 社<br>会 | 数<br>学 | 理<br>科 | 音<br>楽 | 美<br>術 | 保<br>健<br>体<br>育 | 技<br>術<br>・<br>家<br>庭<br>科 | 職<br>業<br>・<br>家<br>庭<br>科 | 外<br>国<br>語 |             |   |                  |                  |                        |                       |                                      |  |
| 氏名(学年)        | 湯梨浜 太郎 (1) | 105    | 105    | 140    | 105    | 145    | 145              | 145                        | 145                        | 145         | 140         | 35  | 50               | 35               | 35                     | 1015                  |                                      |  |
|               | 小6         | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1                | 1                          | 1                          | 1           | 1           | 1   | 1                | 1                | 1                      | 1                     | 1                                    |  |

知的障がいはないが、学習内容が十分に定着していない等の実態があるため、国語と数学は下学年(小6)の目標及び内容を学ぶ生徒

交流及び共同学習の実施

◇印は、特別支援学級担任以外の教員が生徒と共に交流学級に行き、T2として指導・支援を行う時間

【例3】の生徒の「国語」は、小6の目標及び内容を学習

(2) 指導の形態

| 各教科等を合わせて指導を行う場合 | 合わせている各教科等(各教科、道徳、特別活動、自立活動)の名称 |
|------------------|---------------------------------|
| 日常生活の指導          | 国語、算数、音楽、道徳科、学級活動、自立活動          |
| 遊びの指導            | 国語、算数、音楽、道徳科、学級活動、自立活動          |
| 生活単元学習           | 国語、算数、図画工作、道徳科、学級活動、自立活動        |
| 作業学習             | 国語、算数、図画工作、道徳科、学級活動、自立活動        |

【例3】の生徒の「国語」の場合、「交流及び共同学習」は不可能⇒特別支援学級での学習が望ましい。